

パネルディスカッション

議題	より良い環境アセスメント図書の作成に向けて
討議時間	40分
主な内容	<p>事前の意識調査結果等を踏まえて整理した「より良い環境アセスメント図書の作成に向けた課題」（下図）を題材に意見交換を行った。</p> <div data-bbox="400 488 1321 1167" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <h3 style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">より良いアセス図書の作成に向けての課題</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>住民の関心</p> <p>有効な合意形成ツール (住民説明会0人、住民意見0件)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>事業者の意識、姿勢</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>住民目線の分かりやすい図書 (専門的で難解、分厚い、不親切)</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin: 10px 0;"> <div style="width: 45%;"> <p>説明が行き届いた図書 (事業内容、調査・予測条件など不明確)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容が不明確で、影響要因が抽出できない。 ・どの程度の密度、精度で調査を行ったか不明。 ・計算の諸元がなく、予測結果を検証できない。 <p style="font-size: x-small;">審査側の専門知識、アセス知識</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>完成度の高い図書 (書き振りの不統一、誤字脱字等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに表現、図表スタイル等がバラバラ ・ケアレスミスが多く、信頼性に欠ける。 <p style="text-align: right; font-size: x-small;">コンサルの技術力</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>メリハリのあるオーダーメイドな図書 (参考項目は全て選定、重要度に係わらず同じ手法)</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin: 10px 0;"> <div style="width: 45%;"> <p>金太郎飴アセスからの脱却 (主務省令の丸写し、どのアセス書も同じ手法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性、事業特性を踏まえているのか。 ・「調査地点は騒音が適切に把握できる場所」とはどこ？ ・「調査時期は、鳥類が適切に把握できる時期」っていつ？ </div> <div style="width: 45%;"> <p>ベスト追求型アセスの普及 (環境保全措置は意見が出れば行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重種は移植するが、緑地はほぼ開発 ・環境保全措置の記述が具体的でない。 ・本当に、実行可能な範囲内での実施内容？ </div> </div> </div> <p><討議内容></p> <p>パネラーA：いろいろなアセス図書の事例を見て、良い所を参考にして欲しい。そのためにも北九州市で取り組んでいるように、過去のアセス図書の電子公開による情報共有、アクセス性の向上が必要と考える。</p> <p>参加者（自治体審査担当）：ケアレスミスが多いほか、説明不足で、客観的な根拠が示されていない案件が見受けられる。</p> <p>パネラーB：事業者もコンサル任せにしないで、アセスの調査現場を見るなど積極的に関与して欲しい。</p> <p>会場（環境コンサル）：事業者が行政か民間かで課題の状況が異なる。行政は年度単位での発注が基本なので、業者が途中で替わったりする問題が生じる。民間は利益を上げる必要があるため、あまり手の込んだ分かりやすさの工夫を加える余裕がないのが実情ではないか。住民目線での分かりやすさよりも審査に通りやすさを重視する傾向になってしまう。</p> <p>パネラーC：住民説明会にほとんど住民が参加せず、通り一遍の説明で終わっている案件も見受けられる。</p> <p>会場（民間事業者）：要約書の位置づけが中途半端になっている。分かりやすさの役</p>

割を要約書に持たせるのはどうか。電力会社では、別途パンフレットを作成して住民説明に活用している。また、電子縦覧について、アセスが完了してまでネット上に公開するのは、事業者としては抵抗がある。特に、配慮書や方法書段階では、事業計画が不明確な状態で記載しているの、誤解を生じる可能性がある。

パネラーC：電力会社さんが縦覧終了後は著作権もあるので、公開はしないで欲しいという要望があり、日本環境アセスメント協会ではアセス図書の貸出にあたり、毎回情報公開請求を出してもらおうという手続に変えたという事があった。

会場（環境コンサル）：ケアレスミスが残ってしまい、事業者に迷惑を掛けてしまったことがある。

パネラーC：コンサルも制限のある工期とコストの中で図書を作成しなくてはならず、難しい面があると思う。

会場（自治体審査担当）：科学的な根拠に基づく図書と住民目線の分かりやすい図書は相反するものなので、1つの図書で解決するのは難しい。専門的な図書と分かりやすいパンフレットのようなものを別々に作成することになるのではないかな。

メリハリの効かせ方として、過去の事例で、「重点化」という言い方をして、住民に対しては、特に住民の関心のある項目についてのみ説明をしていくという合意形成の取り方を行っていた。このように、審査に当てるツールと住民への説明ツールを分けて考えるという方法がよいのではないかな。

パネラーD：地域の理解を得ていくという視点が重要だと思う。風力発電の事例では住民のバスツアーを企画して現地案内して説明を行う等の配慮を行っていた。

パネラーA：審査会の専門家に提出する図書が分厚くなるのは仕方がない。おそらく要約書は本編の図書が完成してから、内容を割愛して作成するという形式をとっているようだ。例えば、審査会での説明用のパワーポイントがとても分かりやすい。スマホを利用した動画での説明なども面白いと思う。

パネラーE：良いアセス図書を表彰するという仕組みなどがあると、コンサルも品質の高い図書を作るモチベーションになる。

パネラーB：事業者にもアセス図書を読み込んで、できるだけ技術的な内容も理解するようにしてほしい。

パネラーC：審査会の課題もあって、委員の中には自分の専門分野について細かい要望を出す場合があり、そうなるとアセス書が分厚くなり、それがスタンダードになって次の事業でも同じレベルで行う必要性が出てくるという悪循環が起こるケースがある。本来は、メリハリの観点から簡素化させる項目であったのにも関わらず、そのような事が起こるケースもある。重要な環境要素に対してメリハ리를効かせて重点的な調査等を行いたいところを不本意な内容になってしまう。審査会の委員には専門分野は詳しいが、アセスには詳しくないという方もおられるので、会長の舵取りが重要である。



パネルディスカッション